

六区 マレットゴルフ大会

分館長 小河原 進

台風が過ぎ去った翌週の六月初旬、いずみ湖にて、恒例行事の第六区マレットゴルフ大会が開催できた。参加者を募ってチームを編成し、景品を用意するのが分館の大事な仕事である。後は当日、一般参加者と一緒にプレーをしてグリーンを回る。

他地区の団体と若干時間帯が重なったのスタートであり、「スティックの数が足りるか？」が分館長の一番の心配事であった。私は、父のスティックを借り、すがすがしい朝の中で参加者の到着を待った。大丈夫、常連の皆さまはマイスティック持参であった。



普段は話をして一緒にプレーなどしたことのない近所の皆さんと同じチームで、私は一打ごとに一喜一憂しながらホールを回り、心地よい汗を流した。分館行事の参加者と分館役員に感謝しながら、楽しかった思い出を披露させていただいた。

七区 きのこ中毒防止展示会&勉強会

分館長 古田 寛

二ツ山、西尾根、組平から内山、山の幸。里山も広く、秋期には村中でのこ採り。

十月十日、東山田公民館で「きのこ中毒防止展示会&勉強会」を開催しました。食べられるきのこを中心に類似した毒きのこの対比、中毒例の多いきのこの注意点など、分かりやすく並べて、見て・触って、匂いを確かめられるように工夫して展示しました。

シーズン初めには、はしりのきのこが多く出たのですが、盛期にはここ数十年、初めて経験する大凶作年となりました。協力団体の「雅の会」のメンバーを中心に、山中を探しまくって、約八十種を展示でき、どうにか展示会の形を作れました。

来場された方にはおいしいきのこ汁が振舞われ、この不作のなか、「はじめてのきのこ汁だ」と喜ばれました。来秋が豊作年になりますように…。



八区 神明神社祭

分館長 栗原 一

毎年秋、神明神社祭が、宵祭り和本祭りの二部構成で二日間、八区公民館で開催されます。氏子会が中心となり、各種団体が協力して祭りを催します。公民館も裏方として、祭りの設営や初日の宵祭りの舞台準備や司会進行に協力しています。

十月八日の宵祭りは公民館演出によるオープニングから始まり、小学生の体操やダンス、各種団体の演目が披露されました。特にプロによる大迫力の太鼓演奏に、多くの人が魅了され、締めめの抽選会まで大盛況の内に宵祭りを終えることができました。

翌十月九日の本祭りは、晴天の中早朝より長持ちや子供御輿が町内を練り歩き、午後からはお社で神事を催し、子供長持ちや相撲の奉納を行いました。

その後の区民パーティーでは、多くの区民の方々と絆を深め、楽しい一日を過ごすことができました。



九区 年末の恒例行事

分館長 與曾井 秀治

十二月二十五日、子ども主体の餅つき・しめ縄講習会と、町別子ども会を開催しました。とても賑やかな一日でした。

手慣れた手つきで、わらをすいていき、それから丁寧に説明していただきました。

とても和やかで和気あいあいの雰囲気でした。その間、役員は子ども達と餅つきをしました。



毎年やっていることで、テキパキと全員でつくることができ、お汁粉でおいしくいただきました。また、婦人部に指導を受けながら、鏡餅も作りました。ただたどしい手つきでしたが、無事完成しました。

餅としめ縄は同じ稲でも、米とわらという別の物からできる不思議さがあることも楽しく、出来上がれば嬉しく、一年を締めくくるに相応しいイベントです。

これからも、大切にしていきたいです。

十区 手打ちうどん講習会

分館長 米山 善明

七月九日(土)、富部公民館において、五十名ほどの参加で、太田講師を迎えて開催しました。

四班に分かれ、廊下までテーブルを並べ講習会が始まりました。皆さん真剣なまなざしで、緊張して粉をこね間、間に作り。カット節でだしを取り、おいしいダシ汁ができると、いよいようどんをのりして切りました。太いうどん細いうどん様々ですが、自分たちで作ったうどんです。さあ、ゆでる番です。ゆでる時間も講師に見てもらい、時間を決めてもらいました。

ゆで上がったうどんは、各自試食しました。この頃には、先程の真剣さはなくなり、皆笑顔です。

「少し硬いね」「もう少しゆでた方がいいかな?」「おじいちゃんの方が美味しい…」など、いろいろな声が聞こえてきました。

三世代が参加できた講習会になりました。笑顔の絶えない分館活動の始まりとなり、残りの活動に弾みがつきました。



三月のこゑ

陰暦三月「弥生」と言えば、ふつつ花曇りの空や、水仙やクロッカス、ヒヤシンスなどのかわいらしい花々を、連想するのもかもしれない。しかし私は、「凍った土から頭を出すフキノトウ」「南向きの日当たりのよい土手に、光るように咲いている福寿草」「雪をかきわけて花芽を膨らませるクリスマスローズ」などが、厳しい寒さの諏訪の三月には、もっとも相応しいと実感する。

来るようでなかなか来ない春を待ちわびる心も大いにあるが、それ以上に、三月に様々な別れや旅立ちの時を経験した身には、イルカの歌う「なごり雪」が、妙に心に沁みる。長い冬の寒さに耐えて春を迎えるとき、人はそれぞれの世界へ旅立っていく——冬を耐えぬいた強い心をもつて。独り立ちできるよう、冬が我々を鍛えてくれたのだ。

凍った土の中でも、しっかりと根を張っているパンジーが、「厳しい冬の寒さを越えなくては、きれいな花を咲かせることはできない」と、私たちに教えてくれている。



(上野)